



ロータリー：
変化をもたらす

パワー浜松ロータリークラブ週報

クラブテーマ：奉仕の理想のさらなる実現に向けて

パワー浜松ロータリークラブ（2017-18年度 会長：長谷川 博久 幹事：後藤 達朗）
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室
Tel:053-452-0800 Email:info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC

第718回例会 5月29日 AM7:30~8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会：安藤幸史 鈴木直幸
- 点鐘：長谷川博久
- ゲスト：NPO 法人グラウンドワーク三島 専務理事・事務局長
渡辺豊博様
米山記念奨学生 肖英華さん
- 議事：副幹事「クラブ協議会（次年度）」

〈出席報告〉

会員数 78名(内 出席免除会員3名)

出席数 56名 出席率 74,6%

前々回出席率 88%

■会長挨拶



おはようございます。本日は、三島グランドワークの事務局長でもあります渡辺豊博様がお見えになっています。今から20年ほど前ですがJCの関係で当時いろいろ手ほどきをしていただきました。そして99年にはコーディネーターとしてイギリスにも同行していただき本当にお世話になった一人です。そういう意味で今回の卓話は大変興味深い話も聞けますので楽しみにしていただきたいと思います。本日は、少しでも長く貴重な話を聞かせていただきたいと思いますので会長挨拶はこの辺にさせていただき、素晴らしい卓話をお願いします。どうもありがとうございました。

■幹事報告



ネパールの募金を回します。本日、理事・役員会

があります。

■委員会報告



クラブ広報 堀内さん

来週もジュリアさんのCDを販売します。チラシを配布しましたが、次週はピアノを楽しんで頂けたらと思います。

■スマイル

長谷川会長

国際奉仕・山崎さん、廣瀬さん、坂井さん

堀内さん

山下さん

村木さん



■議事



国際奉仕部会 山崎さん

渡辺豊博さんの紹介をします。三島グランドワークスの理事長を務めていらっしゃいます。ギニアの農業支援について記事を読んだ事がきっかけで、今回の卓話を依頼しました。



渡辺豊博さん

長谷川会長との出会いは20年前になります。当時はロンドンへ同行しました。さて、最初にネパールという国についてご説明します。人口は3000万人ほど。多民族国家で23ぐらいの民族がいます。平均年齢は20歳代と若い国です。働く場所はなく失業率は42%です。多くの若者は他国へ出向き中国系の建設会社で働きますが、過酷な労働環境により遺体となって国へ還ってくるといった現状です。

どの様な国づくりをしたら良いのか迷っている国です。経済援助はイギリスに次いで日本が二番目です。8%の富裕層が富を独占しているのが現状です。

ネパールの資源は水です。ヒマラヤ氷河が溶け出した貴重な水を保有していますが、中国がダムを作り、その水を中国に持って行ってしまふ事が起きています。

氷河湖は2323ヶ所あり、これらの水を活かせば国も潤う

のではと考え現在調査をしています。ミネラルウォーターの会社は400社あります。200社は利益を得ていますが、検査すると大腸菌が入っているものもあります。日本の技術で安心で安全な水の提供ができれば、と考えています。

この様な国を2015年に大きな地震が襲いました。殆どの家が崩壊し、9000人程が亡くなりました。震災から3年が経ちますが、現在も王宮を補修している状態です。

私はネパール国家のアドバイザーとして支援交流をされており、河川の浄化を依頼されました。ですが、その前にトイレの環境改善の必要性を感じました。日本も500億円を支援してますが、直ぐに役立つ支援はせず、20年かけて下水を整備するという様な方向に行っています。

ロータリーは、現地に学校を建てたりしてますが、後々ホテルになってしまったりしている現状があります。継続的支援が必要です。

ネパールはヒन्दゥー教の国です。独特な死生観があり、ヒन्दゥー教徒が亡くなると遺体はバクマティーマという川で必ず火葬します。苦しい現世を離れて天国へ旅立つので、火葬の際に泣いている人はいません。

私への依頼は「この川を綺麗にして下さい」というものでした。ヒन्दゥー教徒の彼らにとってこの川は聖なる川です。排泄物、生活污水、火葬した灰などは全てこの川へ流し、その上で飲み水にしたり、身体を洗ったりしていません。まず最初に汚水と分ける為にバイオトイレを設置しました。

排泄物を肥料に変え、農業の循環ができる様に指導しました。学用品も日本式のものを持って行きません。1000万円集め、現場に直接持って行き現地で物を買う、という支援をしています。日本の学用品より彼らにとっては現地のもが使いやすく、本当の支援に繋がるのです。余談ですが、富士山へのバイオトイレもロータリークラブの支援を受けて実施しました。

今後のネパール支援はバイオトイレの配布、大学とのインターシップ研修、実践地体験、子供達を日本に招待しての交流体験、若者に向けてはビジネススクールの開校などを思案しています。

次に繋がる支援モデルを作りたいと思います。